

あおもり漁連

故 植村正治氏 書

甦れ!! 協同組合運動

No.
168



CONTENTS

県内系統・関係機関・年頭ごあいさつ	1
全国系統団体・年頭ごあいさつ	7
全国漁民代表者集会開催!!	10
平成30年度 海難防止技術競技会青森大会	11
平成30年度 漁協職員研修会開催	13
平成30年度 陸奥湾密漁取締訓練開催	14
平成30年度 共販販売担当者会議開催	15
第33回漁協運動功労者表彰、大農林水産祭	16
第46回「青森の海と川をきれいにする運動」入賞作品紹介	17

2019.1

資源・金融・共済の三本柱推進

平成三十一年 県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

三津谷 廣 明

平成31年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員はじめ関係の皆様には、日頃より当連合会の業務運営に対し、格別なるご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、水産政策の改革の方向性を受けて、適切な資源管理と水産業の成長産業化の両立を図る為の、改正漁業法が成立致しました。JFグループ最大の関心事である、漁業権制度の見直しについて不安視されておりますが、本会もJFグループの一員として、浜の明るい将来を切り開く為に、この水産政策の改革に組織を挙げて取組んでいく必要があると考えます。

さて、昨年の本県の漁業を顧みますと、ホタテ養殖業においては生育が順調に推移したこともあり、取扱高では110億円を突破し、4年連続で100億円を超える水揚げを記録する事が出来ました。これもひとえに適正養殖を心掛ける漁業者並びに、関係漁協の努力の賜物と敬

意を表するところであります。

しかしその一方で、鮮魚・海藻類につきましては、ヤリイカ、コンブは好漁であったものの、本県主要魚種であるスルメイカの記録的な不漁や、太平洋クロマグロに関しては、各漁協に対する漁獲割当数量遵守への懸念から「獲り控え」が発生したこともあり、総じて水揚げが低迷し漁船漁業は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、漁業活性化対策としては、各浜が市町村と一体になって策定した「地域浜プラン」及び、「広域浜プラン」の実践に向けた取り組みを支援するとともに、国の施策である「漁船リース緊急事業」をはじめとする「水産業競争力強化緊急事業」の積極的導入と有効活用を図り、漁業経営の安定化と中核的担手の育成に努めて参りました。

さらに、太平洋クロマグロ資源管理対策につきましては、第4管理期間から始まったTAC制度の導入に伴い、適正な管理体制構築に努めると共

に、休漁に対する補償等、漁業所得の確保に向けた対策を、継続して国へ強く働きかけて参ります。

一方、組合員の減少や販売取扱高の減少等により、漁協経営が厳しさを増す中、(公社)青森県漁協経営安定対策協会等、関係機関と連携を図り、「新合併基本計画」の完遂に向けて積極的に取り組んでいるところであります。

また、組織的で巧妙な密漁に対しては、密漁監視システム(むつ湾内15ヶ所に監視カメラ設置)の有効活用を図り、県・警察・海上保安部との連携による、官民一体となった密漁監視体制の強化と、漁業秩序の維持に継続して努めて参ります。

本会では新たな漁業所得向上の対策として、販売事業の一部改革を計画しております。具体的には、水産資源に富む本県の魅力ある水産物を国内外へ発信する、物流とPRの機能を併せ持った「JF青森漁連流通PRセンター」を整備し、行政並びに各浜との連携を図りながら、本県水産物の安定供給・消費拡大・付加価値向上の取組を展開して参る所存でございますので、引き続き会員をはじめ、関係者の皆様にかれましては、ご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに、皆様のますますのご健勝とご多幸、並びに豊漁と海上安全をご祈念申し上げます、併せて救命胴衣常時着用をお願い申し上げます、新年のご挨拶と致します。



青森県農林水産部

水産局長 對馬 廉介

明けましておめでとうございます。
本県水産業の振興と発展に御尽力いただいている皆様に謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

昨年の本県水産業を振り返りますと、最も水揚げの多いホタテガイ養殖については、一昨年より生産額は減少したものの、生産量は増加し、4年連続で100億円を超え、好調を維持しました。

一方で、本県の主要魚種であるスルメイカについては、不漁傾向が続いており、急激な回復は期待できない状況にあることから、限られた資源の中で効率的な漁獲や有効利用ができるよう、県では漁海況情報の分析や情報発信に努めるとともに、近年問題となっている外国漁船の違法操業については、国に対し、更なる取締りの強化を働きかけていくこととしています。

また、7月にはクロマグロのTAC制度がスタートしました。全国屈指の産地である本県にとっては、功罪両面で大きな意味を持つ新制度ですが、これからの天然資源は持続的利用を前提としたものでなければ、国際的な理解は得られず、操業の継続は難しいものとなります。資

源管理の緒についた時の漁獲規制は厳しいものですが、漁業者の皆様には、漁業共済制度等の活用などにより、引き続き経営安定に努めていただきたいと思えます。

さらに、人口減少と高齢化が進む中で大きな課題となっている担い手の確保に向けて、7月には全国漁業就業支援フェアに参画し、県内外に本県漁業の魅力を広く発信するとともに、10月には漁業体験教室を開催、また、インターンシップを随時実施するなど、漁業に関心のある人材を呼び込み、本県での着業者を一人でも多く確保できるよう、積極的に取り組んでいるところ です。

そして、9月には本県外海域では、むつ市大畑沖に次ぐ魚類給餌養殖となるサーモン養殖のための区画漁業権を2漁業協同組合に免許しました。広い層の消費者に好まれるサーモンの養殖は、国内各地で取り組まれています。本県でも内水面養殖の「新サーモン」と併せて、今後が大いに期待されます。

さて、12月8日には、漁業法等の改正法案が国会を通過し、本稿をご覧になる頃には新年度予算案も発表されることから、皆様におかれま

しては、本県水産業をどのように成長産業に育てていくのか具体的なイメージを描いていることと思えます。法改正に伴う省政令の整備に当たっては、県としても将来を見据えて国に対して必要な意見を述べていくこととしています。また、大型予算を具体的な施策の展開につなげ、より効果的、効率的な事業としていくためには、県漁連はじめ各漁業協同組合の企画力とそれを実行していくための総合的な力量が求められることとなります。その意味からも、現在、皆様と公益社団法人青森県漁業協同組合がともに取り組んでいる県内漁業協同組合の広域合併を実現し、マンパワーの集中による組織力のいっそうの強化が必須となります。

新年度からは、第3期「攻めの農林水産業」に代わる新たな基本方針の下、資源管理型漁業やつくり育てる漁業、漁港・漁場などの水産基盤の計画的整備について継続して進めていくこととしており、本県の水産業が地域の産業・経済を幅広く支える重要な基幹産業であるとの認識のもと、今後も水産業に携わる皆様と一丸となって、本県水産業の持続的発展に向け各種施策に取り組んでいきますので、関係者の皆様におかれましては、より一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びにあたり、皆様のますますの御健勝と御繁栄、そして操業の安全を心からお祈りし、まして、新年の御挨拶といたします。



青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長 西山里一

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、県下漁協組合員の皆様並びに漁協系統関係者の皆様に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の我が国の経済情勢は、上期においては、米国経済の好調に牽引される形で、緩やかな経済成長を続けておりましたが、下期に入り、米中貿易摩擦による中国経済の後退や、中国と同じく、米国に対して貿易収支で黒字を計上している我が国への米国からの圧力が大きくなり、今後、我が国の経済に悪影響を及ぼすのではないかとの憶測から、上期に比べ減速しているように感じております。また、本年一〇月に予定されております消費税率一〇パーセントへの引き上げは、これまで過去二度に渡り延期となっておりましたが、この度は、概ね導入が決定的であり、導入後に景気が冷え込むのではないかと危惧しております。

一方、金融情勢に目を向けますと、日本銀行が平成二十八年一月に導入いたしました「マイナス金利政策」は、導入当初は、我が国の経済成長に貢献していたものの、物価上昇率二パーセントの達成はなかなか困難を極め、政策が長

期化することにより、銀行の収益圧迫が金融仲介機能を減退させる等の副作用が懸念されております。

次に、漁業情勢でございますが、一部魚種については、水揚量が増加しているものの、全体的には、減少傾向となっております。さらに、しばらく落ち着いていた燃油価格が、中東各国の対立緊張の流動化が加速している中で、不安定な状況に陥っていることや、漁業者の高齢化・後継者不足など、漁業情勢は問題が山積みであり、大変厳しい環境に晒されております。JFグループとしても喫緊の課題と受け止め、「水産日本の復活」に向けた取組を行うべく基本方針を策定し、浜の活力の再生、漁業・漁村の健全な発展・成長のための積極的な運動を展開しております。

本県漁業につきましても、主要魚種であるホタテ漁業が、前年に比べ水揚量は増加したものの、高値で推移していた価格が平年並みへと落ち着いたことにより、前年を下回る結果となっております。鮮魚類につきましては、主力魚種であるスルメイカの水揚げ不振が、ここ数年に渡り深刻な問題となっており、大変厳しい状況

となっております。また、クロマグロについても、TAC制度の導入により、厳しい状況となることが予測されます。

現在、当連合会では、漁業金融専門機関として持続可能なビジネスモデルを構築することにより、経営基盤並びに財務基盤を強化し、我が国漁業と地域の発展に向け、更なる役割発揮を目指すことを目的とし、JFマリンバンク広域化研究会（広域合併構想）のコアメンバーとして参画しており、広域化実現に向け、積極的に取り組んでいるところです。また、当連合会といたしましては、浜との接点・金融機能の強化を最重要課題としており、昨年八月に組織再編を行い、すべての部署において浜との濃密関係を築き、皆様の期待に沿うサービスを提供できるよう、努力して参る所存でございますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当連合会の経営状況ですが、平成三十年十一月末で貯金残高六〇六億九〇百万円、貸出金残高七八億九八百万円となり、今年度の計画は、概ね順調に推移しております。これも一重に皆様のご支援の賜物と感謝いたしております。

貯金業務につきましても、平成三十年度末残高六一〇億円達成を目標として、JFマリンバンク懸賞付定期貯金を柱に、貯蓄推進を行うと共に、年金受取口座獲得・公共料金等の口座振替獲得件数拡充推進に努めて参ります。

貸出業務につきましてもは制度資金をはじめ各種ローンの推進をしており、漁業経営アシスト

資金を活用した設備資金の促進と住宅ローンをメインに生活資金の融資の拡充を図って参ります。また、漁船リース事業や機器導入事業などによる「水産業競争力強化緊急事業」においても、漁業者の皆様のお力になれるよう、行政、関係機関と連携の上、対応していく所存でございます。

なお、厳しい漁業状況を鑑みて、逐次、漁業者の皆様の金融相談に応じて、生活資金等の融資や条件変更などをご提示している所でございます。今後、漁業者の皆様には貯金・貸出等につきましまして、当連合会の各店舗を通じてお気軽にご相談・ご利用くださいますよう宜しくお願いいたします。

結びといたしまして、皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしますとともに、JFマリンバンクへの変わらぬご支援・ご愛顧賜りますよう重ねてお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



青森県漁業信用基金協会

理事長 奈良岡 修 一

また、融資を受けた後の安定した漁業経営を確保するため、『水産資源の確立』、『漁業金融の円滑化』、『漁業共済加入推進』の三本柱を効果よく循環させるための『循環型漁業』の構築においても引き続き努めて参りますので、皆様の更なる御理解、御支援を賜りますようお願いいたします。

結びに、皆様のますますの御繁栄と御健勝並びに海上安全をお祈り申し上げます、新年の御挨拶といたします。

新年おめでとうございます。平成三十一年の輝かしい新年を皆様とお迎えすることができましたことを大変うれしく存じます。

日ごろ当協会の業務につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、最近の漁業を取り巻く情勢は、漁場・資源環境の劣化、漁撈コストの高騰、そして、漁船の高船齢・老朽化、更には、漁業者の高齢化や就業者の減少等により、依然として厳しい状況が続いております。

このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様

そして私ども「系統団体」が一丸となり、その役割を發揮することが必要と考え、当協会としましても関係機関と連携し、厳しい環境下にある漁業者の経営並びに生活の維持・安定を持続的に図るため、国の事業である、TPP関連対策に係る水産業の競争力強化を促進する、「競争力強化型無保証人資金」、そして、漁船の適切な更新を促進する「浜の担い手漁船リース緊急事業」に係る金融支援事業に加え、本県独自に創設した「沿岸漁業推進関連資金」や後継者対策に資するための「漁家環境の向上を目的とした「事業関連住宅資金」において、引き続き積極かつ的確に推進して参る所存であります。





日本漁船保険組合青森県支所

運営委員長 福島 哲 男

新年明けましておめでとうございます。

平成三十一年の新春を迎え、組合員、漁業協同組合、水産関係団体の役職員の皆様から新春のお慶びを申し上げます。

平成三十年の本県の漁業・水産業界を取り巻く環境をみますと、陸奥湾ホタテ養殖業は四年連続で漁獲金額が百億円を超え好漁であるものの、主力魚種であるスルメイカの不漁を始めとした水揚げの減少、魚価の低迷、後継者不足に加え、マグロ資源管理による数量規制等厳しい一年でありました。

周知のとおり、当組合は、全国の漁船保険組合と漁船保険中央会が統合し、平成二十九年四月一日より日本漁船保険組合青森県支所として、スタート致しましたが、統合に伴う大きな混乱もなく、漁船保険事業を無事に引き継ぐことができ、期待された統合の効果も現れ、一定の成果をあげる事ができました。

これも組合員の方々をはじめ、漁業協同組合並びに関係の皆様方のご理解とご支援ご協力の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。昨年は、保険事業の更なる充実に努め、無事

戻事業、整備点検事業、AIS装置助成金交付事業等の事故防止対策事業の事業規模を拡充して実施し、加入漁船事故の未然防止に積極的に取り組みました。

漁船保険業界を取り巻く環境は、漁船の減少、漁業者の高齢化など非常に厳しい状況であり、漁船保険組合の経営基盤である加入隻数、保険金額の漸減を余儀なくされております。

漁船保険は、漁船漁業のセーフティネットとしての役割を果たすため、すべての漁業者に安心を提供できますよう未加入船の加入推進に鋭意取り組んで参ります。又、漁業者のための漁船保険たる理念のもとに、漁業者の信頼に込められるよう、迅速な事故対応や事務処理の効率化に努め、一層の保険サービスの向上に役員一丸となって取り組んで参りますので、関係各位のなお一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

青森県の漁村の皆様、明けましておめでとうございます。

新春にあたり、皆様の本年のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国各地で台風、豪雨、地震などの自然災害が頻発し、日本各地に大きな傷跡を残しました。災害の規模、海環境変化ともこれまで経験したことのない事態が生じ、自然の恐ろしさを改めて痛感した年となりました。また、本県漁業においてもスルメイカ・サケ等の不漁に加え、異常潮流による定置網の損壊やクロマグロ資源管理問題等、浜の経



青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣 明

漁業経営のセーフティネット「ぎよさい」と「積立ぶらす」

営を脅かす様々な事象が発生し、漁業経営のセーフティーネットとしての「ぎよさい」と「積立ぶらす」の果たすべき役割の重要性を改めて認識したところです。

そのような中、国は平成29年4月策定の「水産基本計画」並びに「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、適切な資源管理と水産業の成長産業化の両立を目指して、水産政策の改革に着手しております。まずは、漁業法・TAC法等の改正を行い、次いで、新たな漁業法のもとで、適切な資源管理等に取り組む漁業者の経営安定を図るためのセーフティー

ネットとしての機能強化を図るとともに、漁業収入安定対策事業の法制化が進められていくこととなります。今回の水産政策の改革において行われるこれらの改正が、さらにより良い制度の実現につながるよう注視するとともに、国に対し働きかけを行って参る所存でございます。このような状況のもと、私ども共済団体では、平成29年4月から3年間の「ぎよさい普及推進全国運動」を展開しており、運動2年目にあたる平成30年度は、本県の推進目標として「ぎよさい」で共済金額22.5億円、「積立ぶらす」で漁業者積立額8億8千万円、加入率80%

に設定をし、現在この計画達成に向けて新規加入推進や既加入者の補償力のアップに取り組んでいるところです。

新年を迎え、青森県の浜の好漁と海上安全、そしてこの一年が災害のない年となることをご祈念いたしますとともに、万が一の備えとして「ぎよさい」と「積立ぶらす」が漁業経営をサポートできるよう、事業の普及に努めて参りますので、本年も皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



農林中央金庫青森支店

支店長 錠 理 一

県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体の役員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

また、漁協系統事業全般にわたる皆様の日々のご努力に対しまして、深く敬意を表しますとともに、私も農林中央金庫の業務につきまして、平素より特段のご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、昨今の漁業情勢については、本県では主要魚種であるスルメイカを筆頭に深刻な不漁が長期化している他、サバの小型化など、生産

量の減少を受け、魚価が引き続き高い水準にあり、特に水産加工業にとっては非常に厳しい環境が続いております。一方、28年度過去最高の水揚げを記録したホタテガイの生産量は、引き続き高い水準にあるものの、単価の下落により金額ベースでは前年対比で下回っている状況にあります。また、水産資源管理の強化や養殖業への企業参入の促進を目指す改正漁業法の成立により、漁業権の付与に関して漁業者への悪影響がないか、今後の動向を注視していく必要があると認識しております。

世界の経済情勢に目を向けますと、米中貿易摩擦や米利上げによる新興国からの資金流出など、世界経済の減速が懸念されております。日本経済においては、昨年は自然災害や天候不順が続いたものの、自律的な景気回復メカニズムは大きく崩れておらず、高水準の企業収益を背景に緩やかな景気拡大が継続している一方、消費税増税や外国人材の受け入れ拡大等、課題も山積している状況です。

金融業界においては、マイナス金利が長引くなか、全国的に地方銀行の再編が活発化する等、金融機関を取り巻く環境が一層厳しさを増していることを踏まえ、漁協系統組織においても経営基盤強化を目指し、東日本地区を含む各ブロックで広域信漁連設立への検討が進められているところです。

協同組織の漁業専門金融機関であるJFマリンバンクとしては、浜の皆様がいかなる時も安心して生活いただけるよう持続可能な漁業金融機能を提供することや、浜と地域社会の発展

への貢献を通じて浜の暮らしを守ることこそ果たすべき使命だと捉えております。

具体的な取組みとして、金融インフラを守るためのATMの導入費用助成や、3親等以内の漁家子弟を含む漁業新規就業者研修受入先に対する一部費用助成を実施しています。また、女性部の魚食普及や貯蓄推進活動に対する助成、

および漁業金融機能の強化施策として漁船リース事業や機器事業等の取扱いを着実に積み上げており、今後も関係団体と十分連携のうえ、対応していく所存であります。

私も農林中央金庫といたしましても、引き続き、JFマリンバンク利用者の負託に応えるため、皆様方と連携をとりつつ、力の限り「浜

の活性化」に向けてお役に立てますよう、万全の取組みを行ってまいります。

最後になりましたが、今年の豊漁と、県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体役職員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成三十一年全国系統団体 年頭ごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長

岸

宏

新年あけましておめでとうございます。全国の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

振り返りますれば昨年は、70年振りの漁業法改正を含め、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革の議論が行われた歴史に残る1年でした。

我が国漁業は、2013年から産出額が上昇に転じ、若い就業が増える等、明るい兆しが見えております。そして我々JFグループは、

6年前から「浜の活力再生プラン」の実践に努め、その成果が確実に出てきており、浜は活気を取り戻しつつあります。

こうした中、改革の議論は進められましたが、我々の最大の関心事である漁業権制度については、今後とも維持することが明確にされ、共同漁業権はこれまで通りJF・JF漁連以外には免許されないこと、区画漁業権等は、漁業権を適切かつ有効に活用しているJFに対して優先して免許されること等が定められたところです。

今後、我々はこの水産改革を自らの課題とし、不転の決意をもって、水産日本の復活に向け、必要な改革を大胆に進めていかなければなりません。

このため、昨年11月には全国漁民代表者集会を開催し、我が国水産業の輝かしい将来を築くため、浜の再生に果敢に取り組むことを誓い、充分な財政的支援措置を含めた革新的な政策の確立を関係要路に強く要請したところです。その結果、昨年を大幅に上回る予算を勝ち取ることができました。ここに改めまして、会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

一方、現下の漁業環境は、不安定な燃油価格、外国船による違法操業問題、風評被害対策を含む復興支援など、依然として課題は山積しております。このような中、本会は新年度から新たな5カ年の中期経営計画に取り組んで参ります。また、水産改革が運用面において漁業者の理

解を得られるよう対応していくほか、浜プランの取り組み支援、次世代を担う中核的漁業者の育成、産地市場統合等の流通構造改革、輸出入

興を含めた水産物消費の拡大等に取り組み、浜の構造改革や所得向上に向けた漁業者の取組を支援して参る所存です。

最後になりますが、全国各浜でご活躍の漁業者の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長

川 端

勲

3か年計画最終年度に向けて

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、浜の皆様にご挨拶を申し上げます。

平日頃より、JF役職員、関係者の皆様にはJF共済の普及推進活動に格別なご尽力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、昨年全国各浜で猛威を振るった台風、豪雨、地震等の自然災害により被害に遭われた全国各地の漁業関係者および地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、JF共済を取り巻く情勢は頻発する自然災害、漁業従事者の減少・高齢化、マイナス金利の継続、主要魚種の漁獲量の減少、国際問題など課題が山積しております。

こうした厳しい環境の中、漁協系統では、運

動方針「漁業の再生 水産日本の復活」を掲げ、浜プランの実行などによりその成果がでてきています。一方、国の水産基本計画では「日本漁業の成長産業化」をすすめるようとしています。

また「水産政策の改革」が進行しつつあり、日本の水産・漁業の変革のときを迎えています。

JF共済は協同組合運動に根ざしたJFの主要事業として、海に生き、浜に生活する組合員・地域住民の「暮らしの保障（補償）」に万全を期すことを通じて、美しい海と漁業を守り、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある漁村・地域づくりに貢献することをめざすという使命と役割があります。

このため、JF共済は平成29年度を初年度とするJF共済3か年計画「一人ひとりの笑顔のために・・・協同の原点」を運動名称として、

「JFと組合員との絆を強化し、JF共済の輪の拡大」、「JF・JF共済連が一体となった共済推進体制を整備」、「JF支援態勢およびJF共済の健全性・信頼性の強化」、「元気で活力のある漁村・地域づくりを支援」の重点取組施策を展開しております。平成31年度は3か年計画の総仕上げの最終年度として推進本部を中心にJFと一体となり、全戸訪問を基調とする保障点検活動をしっかり実践して参ります。

特に、平成29年7月に改正した「くらし」と平成30年7月に改正した「チョコー」の周知徹底をはかり、保障（補償）の最新化を推進するとともに点検運動による漁家の保障等の見直しや法人向けの保障プランの推進展開等により、共済の輪の拡大をはかり、主幹種目チョコーの保有の減少に歯止めをかけ、継続的かつ安定的な事業基盤の確立に努めて参る所存です。

JF共済事業の支払余力（ソルベンシー・マージン）比率は145.9.6%（29年度末）と健全性の基準を大きく超えておりますが、今後一層の健全性・信頼性の確保に努め、組合員・地域住民の皆様への負託に堪えて参りたいと存じますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 三津谷 廣明

副会長理事 南 谷 雅 人

専務理事 熊 木 正 徳

理事 二 木 春 美

〃 山 口 隆 治

〃 富 田 重 基

〃 松 下 誠 四 郎

〃 坂 井 幸 人

代表監事 岡 沼 明 見

監 事 山 本 幸 宏

〃 工 藤 徹

ほか職員一同

青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長 西 山 里 一

ほか役職員一同

青森県漁業信用基金協会

理事 長 奈 良 岡 修 一

ほか役職員一同

日本漁船保険組合 青森県支所

運営委員長 福 島 哲 男

ほか役職員一同

青森県JF共済推進本部

本 部 長 三 國 優

ほか役職員一同

青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣明

ほか役職員一同

(一社)青森県漁港漁場協会

代表理事 越 善 靖 夫

ほか役職員一同

全国漁民代表者集会開催！！

JF全漁連は、去る11月13日、自民党本部において「我が国漁業の将来展望を切り拓く革新的な政策の確立を求める全国漁民代表者集会」を開催した。

集会には、自民党国会議員92人の他、JFグループ関係団体の代表者ら約500人が全国各地から終結し、水産予算概算要求の満額確保など、国内漁業の将来展望を切り拓く革新的な政策の確立を求め、浜の再生に取り組むことを誓った。

主催者を代表し、岸会長（JF全漁連）は「水産改革実現のためには予算概算要求の満額確保が不可欠」と述べ、概算要求で示された3,000億円超えの満額確保を求めた他、補正予算については「漁船リース事業等を含む予算編成」、「セーフティーネット構築事業の大幅な拡充・強化」による国の支援を求めた。

又、「漁業者が理解し納得する改革内容」である事が最も重要であることから、漁業者が安心して資源管理、計画的な経営が行なえる仕組み作りを要請した。

意見表明では、川越組合長（JF浜坂）、山本組合長（JF深浦）が登壇し、川越組合長から、「燃油価格の高騰が続けば、省エネ操業や所得向上を目指す浜プランの取り組み自体が困難な状況になる」といった指摘の他、「漁業の成長産業化のために更なる対策をお願いしたい」という要望があった。

又、山本組合長から「我々漁業者はJF全漁連や自民党の先生の判断を信じて見守っている、国は我々の大きな賭けに應えるため、革新的な納得できる政策を打ち出すべき」と述べるとともに、「自信を持って浜に説得できるだけの裏づけとなる予算の確保を実現すること」と要望した。

決議採択では、川崎副会長（JF全漁連）が決議（案）を読みあげ、満場一致で採決された。

<決議（案）>

1. 我が国漁業の将来展望を切り拓く革新的な政策を確立すること。
2. 政策の実践に必要な水産予算概算要求の満額確保を図るとともに、補正予算の必要額の獲得を図ること。

最後には参加者全員でシュプレヒコールを行い革新的政策の確立や予算の満額確保の実現を訴えた。



主催者を代表し挨拶する岸会長（JF全漁連）



意見表明を行なう山本組合長（JF深浦）



500人を超える漁業関係者が集った会場の様子



平山会長（全国漁青連）リードによるシュプレヒコール

平成30年度 海難防止技術競技会 青森県大会

平成30年9月1日（土）平内町小湊漁港において、平成30年度『海難防止技術競技会青森県大会』が開催され、7箇所の救難所員と漁協関係者合わせて約500名が参加のもと人命救助に係る海難技術競技を実施しました。

～主催挨拶～

最初に主催者を代表し、三津谷会長（JF青森漁連会長）より挨拶がありました。

『本会では、海難事故の防止と人命救助を大きな柱として、これまで数々の啓発運動を関係機関と連携しながら展開してきたが、依然として海難事故は後を絶ちません。その方策として救命胴衣を着用することはもとより、出港前には必ず整備点検することや気象状況を確認するなど、出来ることは自分で実践し、家族のため地域のために海難事故防止に努めることが大事です。しかし万が一、不慮の事故が発生した場合は、漁協や保安部関係機関へ通報し捜索を要請することが必要であり、その海難事故現場に真っ先に駆けつけ救助捜索活動を行なう救難所の活動の大切さは言うまでもありません。海難事故の現場では、的確な判断と迅速な行動が求められております。そのため、救難活動の技術向上と救難所員の救命意識を高めるため、海難防止技術競技会を開催し、海難事故撲滅に努めて参ります。』

次に、来賓として船橋平内町長、及川青森海上保安部長、対馬県農林水産部水産局長が祝辞を述べた。

～海難防止安全宣言～

〔青森県漁協青年部連絡協議会会長 後藤石雄〕

「常日頃より自分の命は自分で守るという強い意志をもち行動する必要がある。我々は本日の大会を機に更なる安全操業の徹底と救命胴衣の常時着用を心がけ、海難事故ゼロを目指し努力する。」

〔青森県漁協女性組織協議会会長 葛西恭子〕

「浜の女性として、妻として、母親として子々孫々の為に恵みの海を守り、安全操業に努め、漁業の火を絶やすことがないよう、救命胴衣の常時着用と着用率100%を目指し、強く呼び掛ける。」



挨拶をする三津谷会長



漁青連 後藤石雄会長



女性協 葛西恭子会長



救命胴衣着用推進



救難所員整列競技



心肺蘇生法競技



火災船消火競技



ゴムボート 操法競技



決意表明する小枝所長

～海難技術競技会～

①救難所員整列競技

各救難所から所長以下5名が参加し、救難所員としての基本動作が機敏で正確に行われているかを競い合う。

②心肺蘇生法競技

各救難所から3名が参加し、基本動作に加え心肺蘇生の手順・胸部圧迫・呼吸法が正確に行われているかを競い合う。

③火災船消火競技

各救難所から所長以下5名が参加し、基本動作に加え消火作業が正確に行われているかを競い合う。

④ゴムボート操法競技

各救難所から5名が参加し、所員の統制とタイムの速さを競い合う。

～決意表明～

本大会を通して救難所を代表し、新深浦町救難所 小枝所長が「救難所員は海難事故の無い平和な海を祈り、日々の訓練・救難機器の整備に努めている。しかし、一瞬の気の緩みや過信により海難事故は発生する。取り返しのつかない悲劇を防ぐためにも、操業時には最善の注意を払い、事故未然防止に対する心がけと救命胴衣の着用を徹底し、自分の身は自分で守ることが必要である。本大会の目的である救難所の活性化と海難事故に対する意識を高め、犠牲者を出さないようこの運動を継続し海難事故撲滅に努める。」と決意表明した。

～講 評～

最後に、八戸海上保安部蜂屋警備救難課長が本日の海難技術競技及び合同訓練について、「本日の大会は、常日頃の海難技術訓練の成果が遺憾なく発揮でき、非常に統制がとれていた。今後、尊い人命と貴重な財産が失わないためにも、今まで以上に海難防止に対する意識が必要である。また、このような運動は継続することが海難事故撲滅に繋がるものである。」と講評を述べた。

技術競技結果	総合1位 脇野沢救難所	総合2位 横浜救難所	総合3位 尻屋救難所
--------	-------------	------------	------------



第一位 脇野沢救難所



第二位 横浜救難所



第三位 尻屋救難所

平成30年度漁協職員研修会開催

去る、12月5日、青森県水産ビル7階大会議室において、本会と（公社）青森県漁協経営安定対策協会主催による「平成30年度漁協職員研修会」が開催され、漁協筆頭職員、水産関係団体を合わせて約90名が出席しました。

冒頭、本会熊木正徳専務理事が次の通り挨拶を述べました。

「師走のお忙しい中、多数お集まりいただき、感謝申し上げます。さて、12月決算漁協が多い中で、皆様におかれましては、12月末まで残り少ない期間ではありますが、計画達成に向けてご尽力頂きたいと思っております。さて、本日の研修内容につきましては、食品衛生法改正に伴う内容、2つ目に軽減税率制度に伴う漁協での対応等の詳細について、3つ目として不当要求に対する基本的対応要領についてという内容となっております。これらは全て、皆様の漁協にも密接に関わってくる内容となっておりますので、本日の研修内容を漁協での事務遂行に役立てて頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。」

研修内容

(1) HACCP制度化について

説明者：青森県健康福祉部保健衛生課 食品衛生グループ 主幹 石井 昌史 氏

(2) 軽減税率制度について

① よくわかる消費税軽減税率制度

説明者：青森税務署 法人課税第一部門統括官 四役 博 氏
青森税務署 税務広報広聴官 鎌田 奈々 氏

② 軽減税率制度への対応について（青森県漁連）

(3) 「不当要求に対する基本的対応要領」について

説明者：公益財団法人 青森県暴力追放県民センター 事業課長 山本 光蔵 氏

上記の内容で研修が行われ、受講した参加者から積極的に質問が飛び交い、充実した研修となった。



軽減税率制度の講演をする講師



受講する漁協職員

平成30年度陸奥湾密漁取締訓練開催

去る9月28日、午前10時30分より蓬田漁港において、陸奥湾密漁監視システムの効率的運用と取締機関との更なる連携・協力体制の強化を図り、密漁の未然防止を目的に「陸奥湾密漁取締訓練」が昨年に続き開催され、青森県、青森海上保安部、青森県警察本部、漁協関係者等合わせて、126名が参加しました。

始めに、むつ湾漁業振興会 立石会長が開会宣言し、青森県漁業協同組合連合会 三津谷会長から「密漁監視システムを導入してもいざ密漁が発生した場合、実践を踏まえた経験を積んでおかなければ、せっかくのシステムを有効に活用できない。10月のナマコ漁解禁前に、実践を踏まえた実施訓練を行い、密漁対策を万全にしたい」と主催者挨拶を述べました。

続いて、青森海上保安部 及川部長、青森県農林水産部水産局 對馬水産局長（中田青森県水産振興課課長代理代読）による来賓代表挨拶後、今回の想定内容である「蓬田村漁協管内での密漁者を発見」「関係機関への連絡」「陸上での密漁者の追跡」「洋上での密漁者の追跡」「蓬田漁港陸上での密漁者の身柄確保」という5つの項目を想定して、青森県、青森海上保安部、青森県警察本部、NECフィールドディング株式会社協力の元、訓練を実施しました。

最後に青森県警察本部生活安全部 岩渕部長から講評を頂き、今回の開催地である蓬田村漁業協同組合 工藤組合長より閉会宣言として「本日の訓練を期に、陸奥湾における密漁未然防止に努めて参ります」と述べ、訓練は無事終了しました。



訓練に臨む漁協職員



密漁後帰港した犯人役

平成30年度 共販販売担当者会議 開催

11月9日、青森県水産ビル3階「会議室」において「平成30年度 共販販売担当者会議」が開催され、漁獲量の実績や今後の水揚げ動向について、意見が交わされました。

会議では、鮮魚の主力であるスルメイカが、昨年同様に全国的な不漁に見舞われ、本県においても高単価ではあるが水揚げが低調に推移し、非常に厳しい状況であることや、マグロについては、TAC制度の運用に伴い小型魚のみならず大型魚も規制対象になったことから10月末で昨年対比56%と低調な水揚げで推移しているとの近況報告がなされた。

また、販売取扱に係る意見交換では現在、各浜で行われている魚価向上に向けた取り組みなど様々な事例を挙げて頂き会議は無事終了した。

会議終了後に、青森県漁連の熊木専務理事により「魚価及び漁業所得向上に向けた対策について」と題して、講演が行われた。

報 告

- 1) 平成30年度10月末取扱実績について
- 2) 平成30年度販売事業の状況について

協 議

販売取扱いに係る意見交換

研修会

講演 題目

「魚価及び漁業所得向上に向けた対策について」

講師 青森県漁業協同組合連合会
専務理事 熊木 正徳



挨拶する三津谷会長



会議風景



講演する熊木専務

《販売事業の状況について》

平成30年度の鮮魚取扱いは、太平洋クロマグロのTAC制度運用開始に伴い小型魚に加え大型魚まで規制対象になったことから漁期開始当初から大変厳しい状況で推移している他、主力のスルメイカは昨年に引き続き全国的な不漁となり、本県においても11月末現在、数量で昨年比48%の約1千7百トンに留まり、品薄の為、単価が高騰しております。鮭については昨年並みに推移し数量では昨年比126%の約2千トンとなっておりますが、魚体の小型化や昨年の高単価の反動から単価は昨年より安値で推移している状況です。

第33回 漁協運動功労者表彰

去る11月22日、全漁連主催による2018年度（第33回）漁協運動功労者表彰式が東京・如水会館で開催され、漁協運動功労者37名、漁業振興功績者34名が表彰されました。

本県からは、漁協運動功労者として、八戸みなと漁業協同組合 元代表理事組合長の熊谷拓治氏が表彰されました。

受章者



八戸みなと漁業協同組合

元代表理事
組合長

熊谷拓治

<功績内容>

平成15年、八戸みなと漁協の初代組合長として、新組合の健全経営へ取り組み、本会理事をはじめとして、本県水産団体の要職に就き、水産業の発展に寄与された。水産庁水産政策審議会特別委員に就任し、TAC調整等、太平洋海域の漁業振興にも大きく関わり、海難防止活動・海上保安思想普及活動にも積極的に取り組んできた功績は誠に大である。

第9回 津軽海峡交流圏「大農林水産祭」

去る、11月10日～11日、「大農林水産祭」が青森産業会館で開催されました。

会場では、海の市、JAふるさと市、産直市等101店が出店し、11月の寒い季節の中、来場者数4万1千人を越えるイベントとなりました。

本会では、マグロ解体ショーのイベントで会場を盛り上げ、様々な水産物・加工品を取り揃えてブース販売を行いました。

当日は、マグロの即売会、各ブースにおいての試食会に長蛇の列が並び、ステージでは、地域活性化アイドルのショーなどのアトラクションで大いに賑わいました。



マグロ解体



漁連ブース

本会ブース
人気商品ベスト3

- 1位 マグロ即売
- 2位 海藻加工品
- 3位 筋子



作文朗読

この運動は昭和四十八年、ホタテガ
イの養殖が盛んになってきた陸奥湾を
いつまでもきれいに守っていくため
に、青森県漁業協同組合連合会とむつ
湾漁業振興会が取り組み始めたもので
す。以来、毎年続けられており、今年
で四十六回目になります。平成二十四
年度からは一般社団法人青森県水産振
興会が引き継ぎ、河川や湖沼も含めた
県内一円の小・中学校から作品を募集
することとしたものです。

県内すべての小・中学校に作品の応募
を依頼したところ、今年は、六十の
小・中学校から七百四十三点の応募が
ありました。

専門審査員による厳正な審査を行
い、十一月十七日の優秀作品表彰式に
は、受賞者・随行者等の八十七名が出
席しました。



主催、来賓、審査委員、受賞者

第四十六回 「青森の海と川をきれいにする運動」 優秀作品表彰式

第46回「青森の海と川をきれいにする運動」受賞者一覧

【図画 小学校】

賞名	学校名	学年	氏名
特選	青森市立奥内小学校	1	穂元 梨那
準特選	青森市立堤小学校	1	菅野 芙美
準特選	青森市立奥内小学校	2	名古屋 勇琉
準特選	八戸市立白銀南小学校	2	降矢 美夢
佳作	青森市立奥内小学校	2	飯田 瑚々海
〃	八戸市立白銀南小学校	5	榎野風平蔵重親
〃	東通村立東通小学校	4	釜沢 祐吏
〃	青森市立沖館小学校	5	工藤 満
〃	むつ市立大平小学校	1	佐藤 龍星
〃	青森市立奥内小学校	1	澤田 愛
〃	青森市立堤小学校	1	長谷川 楓真

【ポスター 小学校】

賞名	学校名	学年	氏名
特選	大鰐町立大鰐小学校	3	須藤 快
準特選	青森市立筒井南小学校	1	秋村 菜々子
準特選	弘前市立時敏小学校	4	櫻庭 一恵
準特選	むつ市立川内小学校	6	三国 杏奈
佳作	大鰐町立大鰐小学校	1	葛西 日彩
〃	むつ市立正津川小学校	2	木村 南那
〃	八戸市立町畑小学校	5	在家 虎伯
〃	むつ市立大平小学校	3	富山 昊
〃	深浦町立いわさき小学校	3	原田 一樹
〃	青森市立野内小学校	1	渡辺 開晴

【作文の部】

賞名	題名	学校名	学年	氏名
特選	たからものの海と川	佐井村立福浦小学校	3	田中 勇吹
準特選	魚や人が安心できる海に	八戸市立是川小学校	6	浪岡 透哉
〃	ふるさとを守る	青森市立東中学校	2	根井 悠花
佳作	海をきれいにするために	むつ市立近川中学校	3	木村 悠唯
〃	広めよう環境を守ること	外ヶ浜町立平館小学校	5	木村 琉人
〃	きれいな海と川を、再び	青森市立古川中学校	3	中野 由美
〃	青森の海と川をきれいにする運動	鶴田町立鶴田中学校	2	三浦 心羽
〃	釣りとの出会いをきっかけに	青森市立東中学校	2	三上 耕平
〃	青森の海と川をきれいにする運動	青森市立古川中学校	2	山口 夏奈

【標語の部】

賞名	題名	学校名	学年	氏名
特選	ゴミのない 小川におどる アユの群れ	東北町立上北小学校	6	田中 利来
準特選	カマイルカ 青森のきれいな海で ジャンプする	むつ市立脇野沢小学校	2	東谷 桜佑
〃	そこの君 今ゴミ捨てた 拾ってね	蓬田村立蓬田中学校	1	森 ももか
佳作	ゴミ拾い 海がきれいだ 幸せだ	外ヶ浜町立平館小学校	6	相内 愛菜
〃	海と川 きれいな水は 森のめぐみ	十和田市立沢田小学校	3	加賀澤 帝樹
〃	ひらめ住む 東通りの海は きれいだよ	東通村立東通小学校	4	川上 莉奈
〃	おかあさんと おなじくらい 青い海が すきです	むつ市立川内小学校	2	川野 桜蒼
〃	みんなのため 地域一体 海岸清掃	深浦町立岩崎中学校	1	竹内 萌々
〃	ゴミは嫌 泣いて悲しむ 海と川	佐井村立福浦小学校	6	田中 柊雅
〃	ポイ捨てNO 強い気持ちで まず大事	蓬田村立蓬田中学校	2	吉田 朝日

【図画 中学校】

賞名	学校名	学年	氏名
特選	大間町立大間中学校	3	竹重 志芳
準特選	青森市立東中学校	2	青山 尚矢
準特選	六戸町立七百中学校	3	下林 真菜
佳作	青森市立東中学校	3	井村 蓮磨
〃	六戸町立七百中学校	3	高坂 琉維
〃	六戸町立七百中学校	3	佐藤 梨央
〃	青森市立浦町中学校	3	田中 孝和

第41回 全国海の子絵画展へ出展

各部門の準特選・佳作は五十音順

【ポスター 中学校】

賞名	学校名	学年	氏名
特選	青森市立戸山中学校	2	安田 ヒカル
準特選	むつ市立大平中学校	2	小林 大悟
準特選	青森市立戸山中学校	1	佐藤 妃咲
準特選	青森市立戸山中学校	2	長谷川 煌人
佳作	青森市立横内中学校	1	奥崎 朋
〃	青森市立沖館中学校	1	杉田 琴羽
〃	六戸町立七百中学校	1	相馬 慈佳
〃	六戸町立七百中学校	2	成田 壮良
〃	青森市立佃中学校	2	宮本 海嶺
〃	青森市立東中学校	3	渡辺 野ノ花

第四十六回

「青森の海と川をきれいにする運動」

作文の部 特選

『たからものの海と川』

福浦小学校三年 田中勇吹

ぼくがすんでいる佐井村の福浦は漁業がさかんで、海では、ウニ、タイ、カレイ、ブリなどがとれ、冬には、タラもとれます。今年の海は、ほう漁で、ウニがたくさんとれました。ぼくも、土日の朝四時ごろおきてでかけることがあります。死んだイワシをのぞくためです。そのままにしておくとなまぐさいにおいがして、作業のじやまになります。お父さんとおじいちゃんがこまっているから、少しでも力になればいいなと思って、それをやっています。

佐井村のウニは、県内外の人に、とてもひょうばんが高く、わざわざ遠くから車でそれを食べに来る人が大ぜいいるほどです。だから福浦の海は自まんの海なんです。

けれども、目を開いてよく見ると、そんな海にもごみがうかんでいます。それもひとつやふたつではありません。けっこう目立ちます。もしもこのままごみがふえつづけると、せつかく

のおいしいウニなどがとれなくなつて、二度と食べられなくなるんじゃないかと、心ばいになります。海のごみはすぐにとりのぞいて、きれいな水を守る必要があります。

守らないといけないのは海だけではなく、川もです。なぜかと言うと、川と海は、つながっているからです。

ぼくのかよう小学校では、四月二十三日（月）に、サケのち魚を近くの川に放流しました。

もしも今のままきれいな自然かんきょうがたもたれた海や川の状態だったら、四年後には大人になったサケがこの福浦の川にもどってくるかもしれないと、むつ水さん事む所の人が話していました。そうなればいいなと、ぼくはたのしみに待っています。

福浦の海と川を守るには、まず、ごみをひろうことです。そして、みんなに声をかけてよご

さないようによびかけることです。川の水をきれいにするには、山の木をそだてて、森を守ることでも大せつなんだよ、と先生が言っていました。

ぼくが、今、かよっている福浦小学校は、来年三月に閉校になつて、四月からは、すこし遠くの学校にバスで行くことになりました。でも、ゆたかな自然にかこまれたこの福浦で学んだことをいかして、ぼくは、これからも、たからものである青森の海と川を守りぬいていこうと思っています。

改正育児・介護休業法

育児や介護に関する止むを得ない理由で、退職を余儀なくされる事態を防ぎ、育児をしながら働く男女労働者が、育児休業等を取得しやすい職場環境作りを推奨する為の改正育児・介護休業法が平成29年10月1日にスタートしています。

○皆さんの職場でも規程等の整備が進んでいるか、見直しましょう。



なお、詳細については厚生労働省ホームページでご確認下さい。

流通課直販店舗 人気取扱商品



ねぶた漬
250g 700円
500g 1300円



ほたてマヨネーズ缶
1ヶ 540円
3ヶ入 1610円
5ヶ入 2670円



ほたて松前漬
250g 1100円



佐井村漁協
津軽海峡甘塩うに
60g 1500円

お問い合わせ

青森県漁連流通課
TEL 017-722-4212
FAX 017-722-5016 まで

第46回
「青森の海と川をきれいにする運動」優秀作品

《図画の部》「小学校」

特選



青森市立奥内小学校
1年 穂元 梨那さん

《図画の部》「中学校」

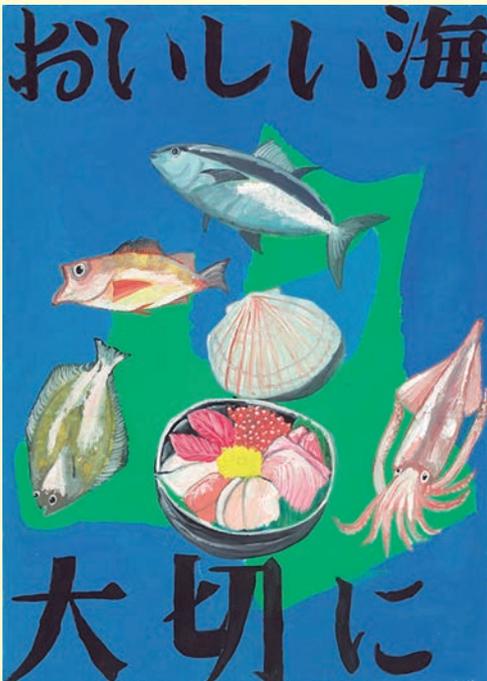
特選



大間町立大間中学校
3年 竹重 志芳さん

《ポスターの部》「中学校」

特選



青森市立戸山中学校
2年 安田 ヒカルさん

《ポスターの部》「小学校」

特選



大鰐町立大鰐小学校
3年 須藤 快さん

《標語の部》特選

ゴミのない
小川におどる
アユの群れ

東北町立上北小学校

6年 田中 利来さん

平成31年1月15日

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)

〈印刷〉青森コロニー印刷